

社会基盤工学専攻

＜前期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主 専 攻 科 目	基礎科目	社会基盤工学のフロンティア	社会基盤工学専攻各教員	2	1年前期(必修)
		社会基盤工学総合プロジェクトA	社会基盤工学専攻各教員	2	1年前期
		社会基盤工学総合プロジェクトB	社会基盤工学専攻各教員	2	1年後期
		途上国開発特論 I	林 希一郎 教授	2	1年後期
		途上国開発特論 II	各教員 (社会基盤)	2	2年後期
		環境コミュニケーション	Victor Muhandiki 寄附講座教授	2	1年前期
		持続可能性と環境学	Victor Muhandiki 寄附講座教授(代表)	2	1年後期
		構造工学セミナー1A	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年前期
	構造工学セミナー1B	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年後期	
	構造工学セミナー1C	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年前期	
	構造工学セミナー1D	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年後期	
	材料・形態学セミナー1A	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 三浦 泰人 助教	2	1年前期	
	材料・形態学セミナー1B	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 三浦 泰人 助教	2	1年後期	
	材料・形態学セミナー1C	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 三浦 泰人 助教	2	2年前期	
	材料・形態学セミナー1D	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 三浦 泰人 助教	2	2年後期	
	流域保全学セミナー1A	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年前期	
	流域保全学セミナー1B	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期	
	流域保全学セミナー1C	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年前期	
	流域保全学セミナー1D	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年後期	
	海岸・海洋工学セミナー1A	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	1年前期	
	海岸・海洋工学セミナー1B	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	1年後期	
	海岸・海洋工学セミナー1C	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	2年前期	
	海岸・海洋工学セミナー1D	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	2年後期	
	地盤材料工学セミナー1A	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年前期	
	地盤材料工学セミナー1B	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年後期	
	地盤材料工学セミナー1C	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年前期	
	地盤材料工学セミナー1D	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年後期	
	国土防災安全工学セミナー1A	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年前期	
国土防災安全工学セミナー1B	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年後期		
国土防災安全工学セミナー1C	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年前期		
国土防災安全工学セミナー1D	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年後期		
社会基盤維持管理学セミナー1A	篠石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	1年前期		
社会基盤維持管理学セミナー1B	篠石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	1年後期		
社会基盤維持管理学セミナー1C	篠石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	2年前期		
社会基盤維持管理学セミナー1D	篠石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	2年後期		
社会基盤計画学セミナー1A	中村 英樹 教授	2	1年前期		
社会基盤計画学セミナー1B	中村 英樹 教授	2	1年後期		
社会基盤計画学セミナー1C	中村 英樹 教授	2	2年前期		
社会基盤計画学セミナー1D	中村 英樹 教授	2	2年後期		
地圏環境保全学セミナー1A	片山 新太 教授	2	1年前期		
地圏環境保全学セミナー1B	片山 新太 教授	2	1年後期		
地圏環境保全学セミナー1C	片山 新太 教授	2	2年前期		
地圏環境保全学セミナー1D	片山 新太 教授	2	2年後期		
国際環境協力セミナー1A	林 希一郎 教授	2	1年前期		
国際環境協力セミナー1B	林 希一郎 教授	2	1年後期		
国際環境協力セミナー1C	林 希一郎 教授	2	2年前期		
国際環境協力セミナー1D	林 希一郎 教授	2	2年後期		
環境エコロジーシステムセミナー1A	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	1年前期		
環境エコロジーシステムセミナー1B	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	1年後期		
環境エコロジーシステムセミナー1C	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	2年前期		
環境エコロジーシステムセミナー1D	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	2年後期		

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	インフラ技術開発・移転セミナー1A	Victor Muhandiki 寄附講座准教授 寄附講座准教授	2	1年前期
		インフラ技術開発・移転セミナー1B	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授	2	1年後期
		インフラ技術開発・移転セミナー1C	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授	2	2年前期
		インフラ技術開発・移転セミナー1D	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾 正也 寄附講座准教授	2	2年後期
		国際協働プロジェクトセミナー I	各教員	2~4	1年前期後期, 2年前期後期
	講 義	社会基盤施設のライフサイクル設計特論	館石 和雄 教授, 中村 光 教授, 北根 安雄 准教授	2	1年後期(選択必修)
		水圏力学特論	辻本 哲郎 教授, 水谷 法美 教授, 戸田 祐 嗣 准教授, 田代 喬 准教授, 中村 友昭 准 教授	2	1年前期(選択必修)
		地盤工学特論	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授	2	1年後期(選択必修)
		社会基盤計画学特論	森川 高行 教授, 山本 俊行 教授	2	1年後期(選択必修)
		低炭素都市学	谷川 寛樹 教授	2	1年前期(選択必修)
		数値解析特論	山本 俊行 教授, 戸田 祐嗣 准教授, 中井 健太郎 准教授, 山本 佳士 准教授	2	1年前期(選択必修)
		銅構造工学特論	館石 和雄 教授	2	1年前期
		コンクリート構造工学特論	中村 光 教授	2	1年前期
		河川・流域圏管理学特論	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授, 田代 喬 准教授	2	1年前期
		地盤材料力学特論	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授	2	1年前期
		交通工学特論	中村 英樹 教授	2	1年前期
		都市計画特論	加藤 博和 准教授	2	1年前期
		土水環境保全学特論	片山 新太 教授	2	1年前期
		環境社会システム工学	谷川 寛樹 教授	2	1年前期
		連続体力学特論	中野 正樹 教授, 野田 利弘 教授	2	1年前期
		水・廃棄物政策論	Victor Muhandiki 寄附講座教授	2	1年前期
		構造力学特論	北根 安雄 准教授	2	1年後期
		海工学特論	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授	2	1年後期
		地盤動力学特論	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授	2	1年後期
		基盤情報学特論	伊藤 義人 教授	2	1年後期
		変動地形学特論	鈴木 康弘 教授	2	1年後期
		水・廃棄物工学	Victor Muhandiki 寄附講座教授	2	1年後期
		気候変動政策論	杉山 範子 特任准教授	2	1年後期
		環境産業システム論	今井 成寿 特任准教授, 柴原 尚希 助教	2	1年後期
		環境資源論	藤田 壮 客員教授	2	1年前期
環境都市システム論	藤田 壮 客員教授	2	1年後期		

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等	
主 専 攻 科 目	主 分 野 科 目	演 習	インフラ検査・点検演習	館石 和雄 教授, 中村 光 教授, 判治 剛 准教授, 山本 佳士 准教授, 三浦 泰人 助教, 清水 優 助教	1	1年前期
			流れ・地形解析学演習	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授, 田代 喬 准教授	1	1年前期
			社会基盤計画学演習	加藤 博和 准教授, 三輪 富生 准教授	1	1年前期
			構造力学特論演習	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	1	1年後期
			海工学演習	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授	1	1年後期
			地盤力学総合演習	中野 正樹 教授, 野田 利弘 教授, 山田 正太郎 准教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教, 野々山 栄人 助教	1	1年後期
			土水環境保全学演習	片山 新太 教授	1	1年後期
			環境社会システム工学演習	谷川 寛樹 教授, 林 希一郎 教授	1	1年後期
		グローバル研究インターンシップ	戸田 祐嗣 准教授, 柴原 尚希 助教	2	随時	
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目				
総合工学科目 (*印はリーディング大学院科目)		高度総合工学創造実験	田川 智彦 教授	3	1年前期後期, 2年前期後期	
		研究インターンシップ 1	田川 智彦 教授	2~8	1年前期後期, 2年前期後期	
		最先端理工学特論	永野 修作 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期	
		最先端理工学実験	永野 修作 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期	
		コミュニケーション学	古谷 礼子 准教授	1	1年後期, 2年後期	
		先端自動車工学特論	未定	3	1年前期, 2年前期	
		科学技術英語特論	非常勤講師	1	1年後期, 2年後期	
		ベンチャービジネス特論 I	永野 修作 准教授	2	1年前期, 2年前期	
		ベンチャービジネス特論 II	永野 修作 准教授, 枝川 明敬 客員教授	2	1年後期, 2年後期	
		学外実習 A	各教員 (社会基盤)	1	1年前期後期, 2年前期後期	
		宇宙研究開発概論* (フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム)	リーディング大学院事業 各推進担当者	2	1年前期, 2年前期	
		実世界データ解析学特論* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム)	リーディング大学院事業 各推進担当者	2~3	1年後期	
		実世界データ循環システム特論I* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム)	リーディング大学院事業 各推進担当者	2	2年前期	
		国際プロジェクト研究	各教員	2~4	1年前期後期, 2年前期後期	
	国際協働教育特別講義	未定	1	1年前期後期, 2年前期後期		
	国際協働教育外国語演習	未定	1	1年前期後期, 2年前期後期		
他研究科等科目		本学大学院の他の研究科で開講される授業科目, 大学院共通科目, 単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部内の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目				
研究指導						
履修方法および研究指導						
<p>1. 以下の一〜三の各項を満たし、合計30単位以上</p> <p>一 主専攻科目:</p> <p>イ 基礎科目 6単位以上</p> <p>ロ 主分野科目の中から、セミナー 8単位、選択必修科目 8単位、実験・演習 1単位を含む 19単位以上</p> <p>二 副専攻科目及び他研究科等科目の中から 2単位以上</p> <p>三 総合工学科目は 2単位までを修了要件単位として認め、2単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>						

社会基盤工学専攻

＜後期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	構造工学セミナー2A	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年前期
		構造工学セミナー2B	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	1年後期
		構造工学セミナー2C	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年前期
		構造工学セミナー2D	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	2年後期
		構造工学セミナー2E	伊藤 義人 教授, 北根 安雄 准教授, 廣畑 幹人 助教	2	3年前期
		材料・形態学セミナー2A	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 浦 泰人 助教	2	1年前期
		材料・形態学セミナー2B	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 浦 泰人 助教	2	1年後期
		材料・形態学セミナー2C	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 浦 泰人 助教	2	2年前期
		材料・形態学セミナー2D	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 浦 泰人 助教	2	2年後期
		材料・形態学セミナー2E	中村 光 教授, 山本 佳士 准教授, 浦 泰人 助教	2	3年前期
		流域保全学セミナー2A	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年前期
		流域保全学セミナー2B	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期
		流域保全学セミナー2C	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年前期
		流域保全学セミナー2D	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年後期
		流域保全学セミナー2E	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	3年前期
		海岸・海洋工学セミナー2A	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	1年前期
		海岸・海洋工学セミナー2B	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	1年後期
		海岸・海洋工学セミナー2C	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	2年前期
		海岸・海洋工学セミナー2D	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	2年後期
		海岸・海洋工学セミナー2E	水谷 法美 教授, 中村 友昭 准教授, 菊 雅美 助教	2	3年前期
		地盤材料工学セミナー2A	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年前期
		地盤材料工学セミナー2B	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	1年後期
		地盤材料工学セミナー2C	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年前期
		地盤材料工学セミナー2D	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	2年後期
		地盤材料工学セミナー2E	中野 正樹 教授, 山田 正太郎 准教授, 野々山 栄人 助教	2	3年前期
		国土防災安全工学セミナー2A	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年前期
		国土防災安全工学セミナー2B	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	1年後期
		国土防災安全工学セミナー2C	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年前期
		国土防災安全工学セミナー2D	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	2年後期
		国土防災安全工学セミナー2E	野田 利弘 教授, 中井 健太郎 准教授, 田代 むつみ 助教	2	3年前期
		社会基盤維持管理学セミナー2A	舘石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	1年前期
		社会基盤維持管理学セミナー2B	舘石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	1年後期
		社会基盤維持管理学セミナー2C	舘石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	2年前期
		社会基盤維持管理学セミナー2D	舘石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	2年後期
		社会基盤維持管理学セミナー2E	舘石 和雄 教授, 判治 剛 准教授, 清水 優 助教	2	3年前期
		社会基盤計画学セミナー2A	中村 英樹 教授	2	1年前期
		社会基盤計画学セミナー2B	中村 英樹 教授	2	1年後期
		社会基盤計画学セミナー2C	中村 英樹 教授	2	2年前期
		社会基盤計画学セミナー2D	中村 英樹 教授	2	2年後期
		社会基盤計画学セミナー2E	中村 英樹 教授	2	3年前期
		地圏環境保全学セミナー2A	片山 新太 教授	2	1年前期
		地圏環境保全学セミナー2B	片山 新太 教授	2	1年後期
		地圏環境保全学セミナー2C	片山 新太 教授	2	2年前期
		地圏環境保全学セミナー2D	片山 新太 教授	2	2年後期
		地圏環境保全学セミナー2E	片山 新太 教授	2	3年前期

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主 専 攻 科 目	ゼ ミ ナ ー	国際環境協力セミナー2A	林 希一郎 教授	2	1年前期
		国際環境協力セミナー2B	林 希一郎 教授	2	1年後期
		国際環境協力セミナー2C	林 希一郎 教授	2	2年前期
		国際環境協力セミナー2D	林 希一郎 教授	2	2年後期
		国際環境協力セミナー2E	林 希一郎 教授	2	3年前期
		環境エコロジーシステムセミナー2A	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	1年前期
		環境エコロジーシステムセミナー2B	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	1年後期
		環境エコロジーシステムセミナー2C	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	2年前期
		環境エコロジーシステムセミナー2D	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	2年後期
		環境エコロジーシステムセミナー2E	山本 俊行 教授, 三輪 富生 准教授	2	3年前期
		インフラ技術開発・移転セミナー2A	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾正也 寄附講座准教授	2	1年前期
		インフラ技術開発・移転セミナー2B	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾正也 寄附講座准教授	2	1年後期
		インフラ技術開発・移転セミナー2C	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾正也 寄附講座准教授	2	2年前期
		インフラ技術開発・移転セミナー2D	Victor Muhandiki 寄附講座教授, 檜尾正也 寄附講座准教授	2	2年後期
国際協働プロジェクトセミナーII	各教員	2~4	1年前期後期 2年前期後期		
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目			
総合工学科目 (*印はリーディング大学院科目)		実験指導体験実習1	田川 智彦 教授	1	1年前期後期 2年前期後期
		実験指導体験実習2	永野 修作 准教授	1	1年前期後期 2年前期後期
		研究インターンシップ2	田川 智彦 教授	2~8	1年前期後期 2年前期後期
		実世界データ循環システム特論II* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム)	リーディング大学院事業 各推進担当者	2	1年後期
		産学官プロジェクトワーク* (実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム)	リーディング大学院事業 各推進担当者	2	1年前期後期
他研究科等科目		本学大学院の他の研究科で開講される授業科目、大学院共通科目、単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目			
研究指導					
履修方法及び研究指導					
1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上					
2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること					

社会基盤工学のフロンティア (2.0単位)

科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	各教員 (社会基盤)

●本講座の目的およびねらい
本講義では、主として社会基盤工学専攻の教員が現在取り組んでいる研究、プロジェクト、あるいはその領域で問題になっている事例・事例の紹介を行う。それによって、現在、社会基盤工学に関する研究の最前線を知り、それらを総合した社会基盤工学の枠組みを自らの専門範囲を超えて各々が考える。

●バックグラウンドとなる科目
特になし

●授業内容

1. ガイダンス 2. 構造力学分野の最前線 \ 3. 材料工学分野の最前線 \ 4. 海岸工学分野の最前線 \ 5. 河川工学分野の最前線 \ 6. 地盤工学分野の最前線 \ 7. 都市計画・交通計画分野の最前線 \ 8. 衛生工学・環境工学分野の最前線

●教科書

特になし

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義時間内に質問を歓迎する。

社会基盤工学総合プロジェクトA (2.0単位)

科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	各教員 (社会基盤)

●本講座の目的およびねらい
第一線で活躍されている学外講師からの講義を通して、領域横断的な研究分野やその諸問題に可能な限り接するとともに、その分野の諸問題を自ら主体性を持って考え、そして解決する能力を高めることを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
特になし

●授業内容

1. ガイダンス
2. 7名の外部講師からの講義・講演
3. (講演各回について) 学生を主体とした質疑応答

●教科書

特になし

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポートおよび口頭発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義時間内の質問を歓迎する。

社会基盤工学総合プロジェクトB (2.0単位)

科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	各教員 (社会基盤)

●本講座の目的およびねらい
社会基盤工学に関連する特定のテーマを設定し、これに関した一連の発表、討議を通して、最終的には、講義受講者全体で一つのレポートを纏め上げることを課題とする。最終的な成果のみでなく、課題のしぼりこみ、それに関する発表、討議、そしてそれをまとめていく一連の作業自体が講義の目的そのものでもある。

●バックグラウンドとなる科目
社旗基盤工学のフロンティア、社会基盤工学総合プロジェクトA

●授業内容

チームごとに社会基盤工学にかかわる種々の解決問題について講じ、問題提起を行うとともにその対策について討論する。

●教科書

特になし

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポートおよび口頭発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義時間内の質問を歓迎する。

途上国開発特論I (2.0単位)

科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
途上国の社会資本整備に必要なべき組織、人材となるべく、途上国の開発に伴う持続可能な開発論、環境管理論、国際協力論について基礎的事項を理解し、応用力を身に付け、総合的に判断できる視点を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

・持続可能な開発・途上国の環境資源問題・国際環境管理論1 (国際条約)・国際環境管理論2 (国際機関の役割)・国際協力

●教科書

授業中にプリントを配布

●参考書

授業中に適宜指示する。

●評価方法と基準

リアクションペーパー及びレポートで評価し、60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

途上国開発特論Ⅱ (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	各教員 (社会基盤)
<p>●本講座の目的およびねらい 途上国の社会資本整備に必要となるべき組織、人材となるべく、途上国の社会資本整備のための設計、維持管理、運用論を修得し、途上国の災害・環境管理論について理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし</p> <p>●授業内容 1. 災害リスクマネジメント 2. 水資源・流域管理 3. 沿岸域管理 4. インフラ整備 5. 途上国のインフラ整備プロジェクト</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

環境コミュニケーション (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境問題について英語で学び、考える能力を育成し、その能力をプレゼンテーション、または議論を英語でするために生かす。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 環境問題は一つの国固有の問題でないで、環境学を学び、これを実践していくためには国際的なコミュニケーション能力が必要不可欠となる。本講義では、国際的なコミュニケーション言語として英語を取り上げ、さまざまな環境問題について分析し英語で政策提言し討論を行う。自らの主張を訴え説得する国際的なコミュニケーション能力を高めることを目指す。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. グループディスカッション(母国での環境問題について) 3. グループプレゼンテーション (母国での環境問題について) 4. グループディスカッション (環境問題に関する映画について) 5. グループプレゼンテーション (環境問題に関する映画について) 6. グループディスカッション (次の授業でディベートされる環境問題) 7. グループディベート 8. 自由ディスカッション (課題は、クラスによって決定される) 9. プレゼンテーション (履修生のうち希望者数名が興味あるトピックについて発表する) 10. ディスカッション: 持続可能性とは何か? 11. 各自プレゼンテーション 12. 各自プレゼンテーション 13. 各自プレゼンテーション 14. 各自プレゼンテーション 15. 各自プレゼンテーション <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 プレゼンテーションの内容、ディスカッションへの貢献度とレポートによって評価する。授業への出席率が80%未満の者は不可とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 質問への対応: 講義終了時に対応する。 担当教員連絡先: 内線 6495 victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp \</p>	

持続可能性と環境学 (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 基礎科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授
<p>●本講座の目的およびねらい 学生は、講義を通じて、 1. 持続性及び環境学について、1)社会/社会科学の観点、2)自然科学的知見、3)都市という空間、の3つの観点から理解し、説明できる。 2. 持続性に「安全」という概念を含めて説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 低炭素都市学、水・廃棄物政策論、など。</p> <p>●授業内容 環境を考える上での、重要な概念の一つである「持続可能な発展」について、持続性(sustainability)という尺度と環境学 (environmental studies) という分野を通じて理解する。 持続性及び環境学について、1)社会/社会科学の観点、2)自然科学的知見、3)都市という空間、の3つの観点から理解し、説明できる。 持続性に「安全」という概念を含めて説明できる。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 持続可能性とは何か? 3. 交通の持続可能性 4. リモートセンシングによる地球環境変動モニタリング 5. 化学製品の安全な生産と使用 6. 都市のグリーンインフラストラクチャーをつくる 7. 地球温暖化に関する科学的理解の現状 8. 自然災害と社会 9. 黄砂と砂漠化 10. 持続可能な物質の利用と低炭素社会 11. 自由ディスカッション 12. 自由ディスカッション 13. 自由ディスカッション 14. レポートの提出、ディスカッション <p>●教科書 初回の講義に紹介するとともに、講義資料を配付する。</p> <p>●参考書 講義の進行に合わせて適宜紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 レポート(100%)。毎回出席して、次回の予定について指示に従うことが必須である。また、講義は、基本的に、英語で行われる。授業への出席率が80%未満の者は不可とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 担当教員連絡先: 内線 6495; E-mail victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp:</p>	

構造工学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造工学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容 1. 構造力学: 2. 構造安定理論; 3. 耐震設計理論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 授業中に質問に対応する。</p>	

構造工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教	

●本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など

●授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
セミナー中に対応する。

構造工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教	

●本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など

●授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
セミナー中に対応する。

構造工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教	

●本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など

●授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
セミナー中に対応する。

材料・形態学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 光 教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教	

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院:平成23年度以降入学者>
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
<大学院:平成22年度以前入学者>
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

材料・形態学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中村 光 教授	山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
<大学院：平成22年度以前入学者>
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	中村 光 教授	山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
<大学院：平成22年度以前入学者>
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	中村 光 教授	山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

<大学院：平成23年度以降入学者>
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
<大学院：平成22年度以前入学者>
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

流域保全学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水利・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
河川工学、流域水文学、開水路水理学、水理学、人間活動と環境

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念 2. 河川・流域景観の構成 \ 3. 流出・土砂生産 \ 4. 河道のプロセス \ 5. 生態環境評価の手法

●教科書
●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項
●質問への対応

流域保全学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学</p> <p>●授業内容 1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生息環境評価の手法</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーでの発表及びレポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

流域保全学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学</p> <p>●授業内容 1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生息環境評価の手法</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーでの発表及びレポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

流域保全学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	辻本 哲郎 教授	戸田 祐嗣 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学</p> <p>●授業内容 1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生息環境評価の手法</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーでの発表及びレポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

海岸・海洋工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	水谷 法美 教授	中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。: 達成目標: 1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。: 2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。</p> <p>●教科書 各研究分野に関連する英文論文を選定する。</p> <p>●参考書 指定はしない。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、6.0点以上を合格。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応。連絡先: 水谷 (内線4630, nizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 中村 (4632, tnakanura@nagoya-u.jp)</p>		

海岸・海洋工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教	

- 本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。
- 教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。
- 参考書
指定はしない。
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、中村（4632, tnakamura@nagoya-u.jp）

海岸・海洋工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教	

- 本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。
- バックグラウンドとなる科目
海洋力学特論, 海工学特論, 海工学演習
- 授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。
- 教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。
- 参考書
指定はしない。
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、中村（4632, tnakamura@nagoya-u.jp）

海岸・海洋工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教	

- 本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。
- バックグラウンドとなる科目
海洋力学特論, 海工学特論, 海工学演習
- 授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。
- 教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。
- 参考書
指定はしない。
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、中村（4632, tnakamura@nagoya-u.jp）

地盤材料工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。
- バックグラウンドとなる科目
地盤材料学特論, 地盤力学特論, 連続体力学特論, 数値解析特論
- 授業内容
地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討論を行う。
- 教科書
対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。
- 参考書
適宜、紹介する。
- 評価方法と基準
セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
特になし
- 質問への対応
セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakanoc@civil.nagoya-u.ac.jp | 山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp | 野々山崇人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中野 正樹 教授	山田 正太郎 准教授 野々山 栄人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論, 地盤動力学特論, 連続体力学特論, 数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討論を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp 山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp 野々山栄人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	中野 正樹 教授	山田 正太郎 准教授 野々山 栄人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論, 地盤動力学特論, 連続体力学特論, 数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討論を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp 山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp 野々山栄人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	中野 正樹 教授	山田 正太郎 准教授 野々山 栄人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論, 地盤動力学特論, 連続体力学特論, 数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討論を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp 山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp 野々山栄人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

国土防災安全工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	野田 利弘 教授	中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい

最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤工学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目

地盤力学特論, 地盤動力学特論, 地盤工学特論, 地震工学, 地盤解析学演習, 地盤動力学演習

●授業内容

1. 軟弱地盤力学の基礎: 2. 地盤構造物の変形・安定性: 3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法: 4. 地盤補強・改良工法の設計: 5. 耐震工学の基礎: 6. 地震入力: 7. 地震応答解析及び耐震安全性評価

●教科書

必要に応じて、プリント配布

●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
 課程区分 前期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 1年後期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
 1.軟弱地盤力学の基礎:2.地盤構造物の変形・安定性:3.軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4.地盤補強・改良工法の設計:5.耐震工学の基礎:6.地震入力:7.地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
 必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
 課程区分 前期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 2年前期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
 1.軟弱地盤力学の基礎:
 2.地盤構造物の変形・安定性:
 3.軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:
 4.地盤補強・改良工法の設計:
 5.耐震工学の基礎:
 6.地震入力:
 7.地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
 必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
 課程区分 前期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 2年後期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
 1.軟弱地盤力学の基礎:2.地盤構造物の変形・安定性:3.軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4.地盤補強・改良工法の設計:5.耐震工学の基礎:6.地震入力:7.地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
 必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

社会基盤維持管理工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分 主専攻科目 主分野科目
 課程区分 前期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期1 1年前期
 教員 館石 和雄 教授 判治 剛 准教授 清水 優 助教

- 本講座の目的およびねらい
 地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等に関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
 橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
 主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
 適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
 出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
 適宜対応する。

社会基盤維持管理学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	館石 和雄 教授	判治 剛准教授 清水 優 助教

●本講座の目的およびねらい
 地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。

●バックグラウンドとなる科目
 橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識

●授業内容
 主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。

●教科書
 適宜指定する。

●参考書

●評価方法と基準
 出席と授業中の態度にて評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 適宜対応する。

社会基盤維持管理学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	館石 和雄 教授	判治 剛准教授 清水 優 助教

●本講座の目的およびねらい
 地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。

●バックグラウンドとなる科目
 橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識

●授業内容
 主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。

●教科書
 適宜指定する。

●参考書

●評価方法と基準
 出席と授業中の態度にて評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 適宜対応する。

社会基盤維持管理学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	館石 和雄 教授	判治 剛准教授 清水 優 助教

●本講座の目的およびねらい
 地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。

●バックグラウンドとなる科目
 橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識

●授業内容
 主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。

●教科書
 適宜指定する。

●参考書

●評価方法と基準
 出席と授業中の態度にて評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 適宜対応する。

社会基盤計画学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 英樹 教授	

●本講座の目的およびねらい
 都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
 交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書
 適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
 レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中村 英樹 教授	

●本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書
適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	中村 英樹 教授	

●本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書
適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	中村 英樹 教授	

●本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書
適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。達成目標：下記の一つの課題について理解し、説明できる。:1.土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム:2.土壌地下水汚染物質の運命:3.生物浄化技術および関与する微生物:4.廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学

●授業内容
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、発表と討論を行う。

●教科書
各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	片山 新太 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。達成目標：下記の二つの課題について理解し、説明できる。1.土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム2.土壌地下水汚染物質の運命3.生物浄化技術および関与する微生物4.廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A</p> <p>●授業内容 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、輪講を行う。</p> <p>●教科書 各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

地圏環境保全学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	片山 新太 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。達成目標：下記の内、3つの課題について理解し、説明できる。1.土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム 2.土壌地下水汚染物質の運命 3.生物浄化技術および関与する微生物 4.廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B</p> <p>●授業内容 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、輪講を行う。</p> <p>●教科書 各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

地圏環境保全学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	片山 新太 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。達成目標：下記の課題について理解し、説明できる。1.土壌地下水汚染の発生・移動メカニズム 2.土壌地下水汚染物質の運命 3.生物浄化技術および関与する微生物 4.廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C</p> <p>●授業内容 土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、アセスメント等について、輪講を行う。</p> <p>●教科書 各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

国際環境協力セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	林 希一郎 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい 国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学</p> <p>●授業内容 国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員と交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 授業中またはメールでコンタクト。</p>		

国際環境協力セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	林 希一郎 教授	

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールで。

国際環境協力セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	林 希一郎 教授	

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A,1B

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールで。

国際環境協力セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	林 希一郎 教授	

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A,1B,1C

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて。

環境エコロジシステムセミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	山本 俊行 教授	三輪 富生 准教授

●本講座の目的およびねらい
環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。

●バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書

適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）

●履修条件・注意事項

●質問への対応

環境エコロジシステムセミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	山本 俊行 教授	三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

環境エコロジシステムセミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	山本 俊行 教授	三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

環境エコロジシステムセミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	山本 俊行 教授	三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

インフラ技術開発・移転セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授	梶尾 正也 寄附講座准教授
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

インフラ技術開発・移転セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

インフラ技術開発・移転セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

インフラ技術開発・移転セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授 榎尾 正也 寄附講座准教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

国際協働プロジェクトセミナー1 (2.0単位)						
科目区分	主専攻科目	主分野科目				
課程区分	前期課程					
授業形態	セミナー					
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻					
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
前期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
前期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員(世界展開力)					
●本講座の目的およびねらい						
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を主体とする。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。						
●バックグラウンドとなる科目						
工学全般、英語、技術英語						
●授業内容						
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。						
●教科書						
研究内容に応じ指導教員から指定される。						
●参考書						
●評価方法と基準						
指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6か月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12か月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。						
●履修条件・注意事項						
プログラムに参加する学生のみを対象とする。						
●質問への対応						

国際協働プロジェクトセミナー1 (4.0単位)					
科目区分	主専攻科目	主分野科目			
課程区分	前期課程				
授業形態	セミナー				
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻				
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員(世界展開力)				

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
- 授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。
- 教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
- 参考書
なし
- 評価方法及び基準
指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。
- 履修条件・注意事項
プログラム参加者のみ
- 質問への対応
なし

社会基盤施設のライフサイクル設計特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	舘石 和雄 教授 中村 光 教授 北根 安雄 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
社会基盤施設のライフサイクルマネジメントを主題として、特に橋梁の設計理論と維持管理について学ぶことを目的とする。この講義では、以下のことができるようになることを目標とする。
・ 橋梁の設計法の種類とその違いが説明できる。
・ 橋梁の典型的な設計フローを説明できる。
・ 日本の橋梁の現状および維持管理システムについて説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
なし
- 授業内容
(1) 確率論に基づく構造設計の基礎について学び、構造物の信頼性、許容応力度設計法や限界状態設計法の違いについて理解する。
(2) 橋梁の設計例を通して、構造計画に始まり、構造形式の選定、要求性能（使用性、安全性、耐久性など）に対する照査、維持管理性や経済性の検討まで、鋼構造物とコンクリート構造物の設計の流れについて理解する。
(3) 日本の橋梁構造物の現状を把握し、その維持管理システムについて学ぶ。
- 教科書
なし
- 参考書
なし
- 評価方法及び基準
レポート、期末試験の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
英語での講義とする。
- 質問への対応
講義中の質問を歓迎する。

水圏力学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授 水谷 法美 教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 喬 准教授 中村 友昭 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
川や海岸に見られる水圏現象を記述するために確立された水工学の力学体系を学習する。学部の授業でも扱った流体力学の理論を基礎とし、河川域、海岸域など、それぞれのフィールドに適用する形で展開された支配方程式、構成則などを習得する。さらに、これらの理論を参照しながら各フィールドで発展させられてきた、河川・海岸分野における技術体系も併せて紹介する。
- バックグラウンドとなる科目
流れの力学、開水路水理学、流域水文学、沿岸海象力学、河川工学、海洋工学、海域環境学
- 授業内容
1. 概説、非圧縮粘性流体運動の基礎式① 2. 非圧縮粘性流体運動の基礎式② 3. 浅水方程式④ 4. 浅水方程式⑤ 5. 浅水方程式⑥ 6. 河川流における抵抗則⑦ 7. 河川流における抵抗則⑧ 8. 海域流動の支配方程式⑨ 9. 海域流動の支配方程式⑩ 10. 津波と高潮 11. 長波と長波性の波の非線形理論① 12. 長波と長波性の波の非線形理論② 13. 長波と長波性の波の非線形理論③ 14. 長波と長波性の波の非線形理論④
- 教科書
プリントを配布する
- 参考書
必要に応じて指定する
- 評価方法及び基準
レポートと期末試験
- 履修条件・注意事項
なし
- 質問への対応
なし

地盤工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
地盤力学が地盤工学へどのように適用されているのかを概観したのちに、理論的背景を詳述する。特に軟弱地盤における沈下と破壊（支持力問題）の適用例を説明する。また、安全率法や信頼性設計など、不確実性に対処する方法も紹介する。
- バックグラウンドとなる科目
土質力学、土質基礎工学、地盤工学、連続体力学、地盤力学総合演習
- 授業内容
1. 地盤工学入門
2. 多次元圧密変形解析
3. 圧密沈下予測の根拠的方法（找間法）
4. 有効応力と支持力
5. 非排水支持力（ $\phi_u=0$ 円弧すべり解析）
- 教科書
必要に応じて随時資料を配布する。
- 参考書
なし
- 評価方法及び基準
レポートの結果により判断し、60%以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
本講義は英語での開講です。
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
野田利弘：内線3833, nodae@civil.nagoya-u.ac.jp
中井健太郎：内線5203, nakai@civil.nagoya-u.ac.jp

社会基盤計画学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	森川 高行教授	山本 俊行教授

●本講座の目的およびねらい
社会資本整備の意義と目的を明らかにし、その計画策定手法について講述する。達成目標は、公共経済学について説明できること、および、不確実性の考慮も含め評価と意思決定の方法を問題に適した形で適用し、適切な結果を導くことが出来ること。

●バックグラウンドとなる科目
社会資本計画学

●授業内容

1. 公共経済学1 (社会的厚生とパレート最適)
2. 公共経済学2 (消費者行動と需要曲線)
3. 公共経済学3 (生産者行動と市場均衡)
4. 公共経済学4 (市場の失敗)
5. 公共経済学5 (外部性)
6. 公共経済学6 (公共財1)
7. 公共経済学7 (公共財2)
8. 社会資本計画における意思決定
9. 評価と意思決定の手法1 (費用便益分析法と非市場財の価値)
10. 評価と意思決定の手法2 (非市場財の便益評価と効用関数法)
11. 評価と意思決定の手法3 (旅行時間短縮価値とプロジェクト評価)
12. 評価と意思決定の手法4 (社会的厚生関数とAHP)
13. 不確実性下の意思決定1 (期待効用理論)
14. 不確実性下の意思決定2 (ベイズ論的決定理論と情報価値)
15. 不確実性下の意思決定3 (ゲーム理論とジレンマ構造)

●教科書

特に指定しない。講義中にプリントを配布する

●参考書

●評価方法と基準

レポートと筆記試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問がある場合には、なるべく授業中に質問して解決すること。授業時間外では特に定まったオフィスアワーは設けませんが、電子メールで質問およびポイントメントを受け付ける。

担当教員連絡先：内線

(森川) 3564 morikawa@nagoya-u.jp

(山本) 4636 yamanoto@civil.nagoya-u.ac.jp

低炭素都市学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	谷川 寛樹教授	

●本講座の目的およびねらい
都市の開発整備の中に地球温暖化防止を組み込んでいくことを目指して、低炭素型都市づくりのための政策・計画、技術、制度について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
環境社会システム工学

●授業内容

1. 地球の気候システム; 2. 地球温暖化とは; 3. 気候変動と人間の歴史; 4. 経済、エネルギー、環境、IPCC AR4; 5. 都市環境管理と計画; 6. 都市の活動とエネルギー消費; 7. 都市の形、土地利用とエネルギー消費; 8. 交通とエネルギー消費; 9. 街区、建物とエネルギー消費; 10. ヒートアイランド現象; 11. 生活とエネルギー; 12. 都市シミュレーター

●教科書

●参考書

井村秀文著「環境問題をシステム的に考える—氾濫する情報に踊らされないために—」

●評価方法と基準

毎回の講義における小テスト (50%) とレポート (50%)

●履修条件・注意事項

●質問への対応

Contact to Prof. Tanikawa

Email tanikawa@nagoya-u.jp

数値解析特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	山本 俊行教授	戸田 祐嗣 准教授 中井 健太郎 准教授 山本佳士 准教授

●本講座の目的およびねらい
数値解析法の基礎と具体的な手法を理解し、工学問題への応用力を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 有限要素法概念とプログラミング
2. 数値最適化手法
3. スペクトル理論とFFTの原理
4. 常微分方程式の近似解法

●教科書

特になし。必要に応じてプリント配布。

●参考書

●評価方法と基準

レポート 100%

●履修条件・注意事項

●質問への対応

鋼構造工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	館石 和雄教授	

●本講座の目的およびねらい
土木鋼構造物の劣化形態、劣化予測手法、点検・診断技術について理解する。具体的な達成目標は以下の通りである。・都市基盤施設の維持管理の重要性を理解し、説明ができる。・鋼構造物の劣化形態を理解し、説明ができる。・線形破壊力学により鋼構造物の寿命を計算することができる。・鋼構造物の疲労現象、腐食現象を理解し、説明ができる。・点検・診断技術の使い分けや限界を理解し、説明ができる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

・都市基盤施設をとりまく社会的環境と維持管理の重要性・鋼構造物の損傷事例と補修・補強事例・疲労現象とその対策手法・線形破壊力学とその応用・腐食現象とその対策手法・点検・診断技術の種類とそれぞれの得失

●教科書

なし。適宜資料を配付。

●参考書

●評価方法と基準

それぞれの達成目標に対応する課題を出し、それを最終レポートとして提出する。最終レポートの結果により評価し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

コンクリート構造工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 光教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

河川・流域管理工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 喬 准教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

地盤材料力学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

交通工学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中村 英樹 教授	
●本講座の目的およびねらい		
●バックグラウンドとなる科目		
●授業内容		
●教科書		
●参考書		
●評価方法と基準		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応		

都市計画特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	加藤 博和 准教授	

●本講座の目的およびねらい
都市域における人間活動が都市・地球環境に及ぼす影響メカニズムに関して、交通体系・産業構造・ライフスタイルによる環境負荷発生量の違いを定量的評価する方法論と、環境負荷抑制に効果的な施策手法を中心に講述する。さらに、都市・地球環境面からの制約を考慮した都市空間計画・交通計画や、それを支援する財政システムのあり方について探求させる。

●バックグラウンドとなる科目
社会資本計画、都市・国土計画、交通論

- 授業内容
- 「何も手を打たなければ都市は生き残れない」
・様々な制約と、その下で都市マネジメントに求められる方向性
 - 「都市でどのような問題が起こっているのか?」
・都市活動と各種問題との関係に関する経済学・財政学アプローチ
 - 「都市成長は悪か?」
・都市成長に伴うモータリゼーションやライフスタイル変化が及ぼす影響
 - 「既往の道具立てで都市の諸問題をどこまで分析できるか?」
・交通システムや都市分析手法を環境問題検討に適用する方法
 - 「21世紀型都市政策とはどのようなものか? 何をなすべきか?」
・環境に配慮した持続可能な都市・交通計画のあり方

●教科書

特になし

●参考書

特になし

●評価方法と基準

レポート (30%) および最終発表会 (70%)
 <平成23年度以降入・進学者>
 100~80点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
 <平成22年度以前入・進学者>
 100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

E-Mailにて対応する

土水環境保全学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生から環境への曝露経路、その毒性と環境中での運命 (分解、吸着)、生物多様性などの環境への影響、その対策に関する基礎を講義するとともに、環境基準項目や汚染浄化技術、更には廃棄物処理技術などに関して講述し、土や水の環境保全の考え方を理解し修得する。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、微生物学、化学、衛生工学、毒性学、数学、土壌学、水理学

●授業内容
土壌地下水汚染を生じる化学物質の性質、その毒性と環境基準項目、生物 (哺乳動物、植物、微生物) との相互作用 (暴露と代謝・分解)、環境中での運命、汚染浄化技術などに関して講述する。

●教科書

関連資料を配付

●参考書

環境科学入門: 川合真一郎、張野宏也、山本義和 (化学同人) 2011
 環境生物学: 海野肇、松村正利、藤江幸一、片山新太、丹治保典 (講談社) 2002
 農業の環境科学最前線: 日本農業学会/上路雅子、片山新太、中村幸二、星野敏明、山本広基編 (ソフトサイエンス社) 2004
 地下水・土壌汚染の基礎から応用: 日本地下水学会編 (理工図書) 2006

●評価方法と基準

口頭発表と討論能力

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義の後もしくは個別の対応 (あらかじめ電話かemailで日時を決めて対応)

環境社会システム工学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	谷川 寛樹 教授	

●本講座の目的およびねらい

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

●履修条件・注意事項

●質問への対応

連続体力学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	中野 正樹 教授 野田 利弘 教授	

●本講座の目的およびねらい
ベクトル・テンソルの概念を復習し、運動学 (運動の幾何学)、平衡則、客観性など連続体の力学について基礎的事項を理解する。

達成目標

- ベクトル・テンソル解析の基礎について理解し、説明できる。
- 運動する物体の表示法、物体の有する物理量の物質時間微分、物体の変形についてテンソルを用いた表現ができる。
- 応力テンソルの特徴を理解し、説明できる。
- 力学に関する各種保存則、Cauchyの運動法則の理解を理解し、連続体の力学挙動の解釈や表現へ応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、構造解析の基礎、力学I、力学II、微分積分学I、微分積分学II

●授業内容

- 連続体の定義と連続体力学の概要
- ベクトル・テンソル解析の基礎
- 物質の捉え方と運動法則
- 運動、変形の記述
- 運動法則と応力テンソル
- 連続体力学の基礎方程式 (各種保存則と支配方程式)
- ひずみ (速度) の定義式 (適合条件式)
- 構成式と客観性
- 有限変形理論に基づく連続体の変形の記述~初期値境界値問題を解く~

●教科書

必要に応じて随時資料を配布する。

●参考書

田村 武著: 連続体力学入門 (朝倉書店)
 最新弾塑性学: 橋口公一 (朝倉書店)
 地球連続体力学 岩波講座 地球惑星科学 6 (岩波書店)
 土木工学ハンドブック 第6章 固体力学など

●評価方法と基準

期末試験70%、課題レポートを30%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

担当教員連絡先: 内線 4 6 2 2 nakano@civil.nagoya-u.ac.jp

水・廃棄物政策論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	Muhandiki Victor	寄附講座教授

●本講座の目的およびねらい
水質汚染と廃棄物は今日の私たちの社会が直面する重大な環境問題である。水・廃棄物の効果的な管理には、関連する規則、政策、方針、及びこれらを管理する機関が不可欠である。この科目では、法的、政策的、さらに制度的枠組みに焦点を当て、水・廃棄物管理における課題を紹介する。

●バックグラウンドとなる科目
水・廃棄物工学

●授業内容
1. 地球規模の水問題
2. 水問題に対処するための世界的な取り組み
3. ポイント・ノンポイント汚染源
4. 水質基準
5. ポイント・ノンポイント汚染源対策
6. 水使用・水利権
7. ダム・その他洪水調節施設
8. 湖沼：水資源管理問題の典型
9. 湖沼管理の原則
10. 統合的湖沼流域管理(ILBM)
11. 廃棄物の発生・回収・処理
12. 廃棄物の最小化・再利用・資源回収
13. 名古屋市における廃棄物管理のケーススタディ
14. 自由ディスカッション
15. 自由ディスカッション

●教科書
プリントを配布する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
レポート(50%)、期末試験(50%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。授業への出席率80%以上を以て期末試験の受験資格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応
質問への対応：講義終了時に対応する。担当教員連絡先：内線 6495
victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp

構造力学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	北根 安雄	准教授

●本講座の目的およびねらい
柱、はり、板の座屈安定論について学ぶ。基礎方程式の導出方法およびその解法を理解することを目的とする。また、それらが実構造物の設計にどのように利用されているか紹介する。

●バックグラウンドとなる科目
構造力学、極限強度学、固体力学特論

●授業内容
1. 柱の座屈
2. はり-柱
3. 長方形板の座屈
4. 横ねじれ座屈

●教科書
なし。適宜資料を配布する。

●参考書
特になし

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項
●質問への対応
講義中の質問を歓迎する。

海工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	水谷 法美 教授	中村 友昭 准教授

●本講座の目的およびねらい
沿岸域の波の特性を含む平面波浪場の特性、および構造物と波の相互作用問題について講義する。また、最近広く利用されている数値波動水槽についてその基礎を講義する。
達成目標:
・ラディエーション応力と関連する水理現象を理解し、説明できる。
・回折問題を理解し、説明できる。
・減衰定常波を含む波動場を理解し、説明できる。
・浮体の動的応答を理解し、説明できる。
・数値波動水槽の基礎を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
水圏力学特論

●授業内容
・ラディエーション応力と浅海域の波動
・回折波理論(直立円柱、軸対象構造物)
・ポテンシャルと境界要素法
・グリーン関数と数値解法
・浮体の動揺と波浪応答
・数値波動水槽の基礎と応用

●教科書
●参考書
波と漂砂と構造物：榎本亨編著、技報堂出版；海岸波動：土木学会海岸工学委員会、土木学会

●評価方法と基準
期末試験もしくは課題のレポートにより判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

地盤動力学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	野田 利弘 教授	中井 健太郎 准教授

●本講座の目的およびねらい
実際の地震時の地盤の被害状況(液状化)などについて把握するとともに、地震時などの地盤の繰返し応答特性など、地盤動力学に関する基礎的事項および発展的内容を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
連続体力学、土質力学、地盤解析学特論、地盤解析学演習

●授業内容
1. 地震の被害について 2. 質点・質点系の振動メカニズム \ 3. (1相系1次元)連続体(弾性)の振動メカニズム \ ダランベールの解、混合問題、フーリエの解など \ 4. 連続体力学の基礎的事項の復習 \ 5. 水-土2相系の動的問題の捉え方(混合体理論、支配方程式等)

●教科書
必要に応じて随時資料を配布する。

●参考書
連続体力学入門(田村武吾、朝倉書店)、地盤工学ハンドブック(西村直志執筆箇所、地盤工学会)

●評価方法と基準
口頭試験：60%、レポート：40%

●履修条件・注意事項
●質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

基礎情報学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	伊藤 義人 教授	

- 本講義の目的およびねらい
1. 土木分野における情報の既往の利用方法について理解する。 2. 今後の土木分野において期待される情報システムの利用について理解する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
1. 土木と情報 2. 情報システムとは \ 3. GIS \ 4. CG \ 5. 施工管理 \ 6. プロジェクト
- 教科書
教科書は設定しない。適宜、資料および関係する論文を配布する
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
授業への参加の程度を考慮し、定期的に提出を求めるレポートにより評価を行なう。一部プレゼンテーションを行う。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業中に対応する。

変動地形学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	鈴木 康弘 教授	

- 本講義の目的およびねらい
変動帯日本列島の自然環境や災害を理解する上でも重要な変動地形学の基礎と調査法を学び、今日的な大きな課題である低頻度巨大災害に対する防災論についても考える。
- バックグラウンドとなる科目
土地地質学、土質力学、地盤工学
- 授業内容
授業内容
1. 発達史地形学の基礎と調査法
(1)地形面
(2)地形編年
(3)第四紀地形発達史
- 2. 活断層写真判読
(1)リニアメントと活断層
(2)地形の異常とは何か
(3)断層変位地形の実例判読
- 3. 活断層地震防災 (「活断層大地震に備える」を読む)
(1)活断層問題の本質
(2)活断層地震の特質
(3)地震発生予測
(4)低頻度巨大災害防災論
- 教科書
活断層大地震に備える (鈴木康弘著、ちくま新書)
- 参考書
発達史地形学 (貝塚真平著、東大出版会)
写真と図でみる地形学 (貝塚真平ほか編、東大出版会)
活断層地形判読—空中写真による活断層の認定— (渡辺満久・鈴木康弘著、古今書院)
- 評価方法と基準
出席および最終レポートによる。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

水・廃棄物工学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授	

- 本講義の目的およびねらい
水質汚染と廃棄物は今日の私たちの社会が直面する重大な環境問題である。本講義では、飲料水の供給、水域汚染の防止、そして廃棄物管理に適用される多種多様な技術と対策について学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
水・廃棄物政策論
- 授業内容
1. 水循環
2. 水処理と水供給システム
3. 水供給システムの運用管理
4. ディスカッション：水の供給が民営化されるべきか？
5. 生活排水処理システム
6. 生活排水処理システムのコスト
7. ポイント・ノンポイント汚染源
8. ポイント・ノンポイント汚染負荷量推定
9. ポイント・ノンポイント汚染源対策
10. 廃棄物処理施設の設計 (I)
11. 廃棄物処理施設の設計 (II)
12. 名古屋市の廃棄物処理施設
13. 自由ディスカッション
14. プレゼンテーション(母国での水・廃棄物の課題について)
15. プレゼンテーション(母国での水・廃棄物の課題について)
- 教科書
プリントを配布する。
- 参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法と基準
レポート (50%)、期末試験 (50%)の結果により総合判断し、60%以上を合格とする。授業への出席率80%以上を以って期末試験の受験資格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応：講義終了時に対応する。担当教員連絡先：内線 6 4 9 5
victor@urban.env.nagoya-u.ac.jp

気候変動政策論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	杉山 紀子 特任准教授	

- 本講義の目的およびねらい
気候変動 (地球温暖化) に関して、対策 (政策・制度) などについての知識を習得する。達成目標 \ 1 気候変動の意味と科学的根拠を理解できる。 \ 2 気候変動枠組み条約の内容と関連制度に関して説明できる。 \ 3 途上国を中心とした関連対策をイメージできる。
- バックグラウンドとなる科目
低炭素都市学、水・廃棄物政策論
- 授業内容
気候変動に関する研究を行っている国際的機関から講師を招聘して、テーマごとに異なる講師により実施する (予定)。 1 地球環境問題における気候変動の位置づけ \ 2 気候変動枠組み条約と京都議定書 \ 3 目標達成のための政策手段 \ 4 途上国と気候変動問題 \ 5 インターリンクの考え方
- 教科書
講義ごとに資料を配布する。
- 参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。
- 評価方法と基準
レポート (100%)。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
担当教員連絡先：渡邊特任教授 6 4 9 7 miwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp

環境産業システム論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期 1	1 年後期	
教員	今井 成寿 特任准教授 柴原 尚希 助教	

●本講座の目的およびねらい
環境活動や環境技術に優位性を持つ、主に中部地域の企業から直接講義を受ける。以下の2点を達成目標とする。

1)環境活動と環境技術の実例を理解する。
2)実例を理解しつつ、関連科目である環境資源論で履修した内容とどのように結びつのか、理論的な大きな枠組みで考えることができる。

●バックグラウンドとなる科目
低炭素都市学、水・廃棄物政策論、環境資源論

●授業内容
第1回 オリエンテーション
第2回 「プラザー工業」による講義および議論
第3回 「三菱UFJリサーチ&コンサルティング」による講義および議論
第4回 「片平エンジニアリング」による講義および議論
第5回 「JICA中部」による講義および議論
第6回 「東邦ガス」による講義および議論
第7回 「セイコーエプソン」による講義および議論
第8回 「三井住友銀行」による講義および議論
第9回 「サラヤ」による講義および議論
第10回 「笠原木材/ソムニード」による講義および議論
第11回 「名古屋市役所」による講義および議論
第12回 「デンソー」による講義および議論
第13回 学生発表

企業等による講義の後に示される内容に関する課題について、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。

※第2回～第12回の講師は2013年度の例

●教科書
講義ごとに資料を配布する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
最終発表におけるプレゼンテーションとそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。外部講師に対する質疑応答も平常点として考慮する。

●履修条件・注意事項
・講義は英語で実施される。
・主に中部地域の企業に講義を依頼しているが、これらは他に聴講できる機会がまれてあり、大変有意義で充実した内容であるため、履修を強く推奨する。

●質問への対応
NUCELP事務室 (内線：6044)

環境資源論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期 1	1 年前期	
教員	藤田 壮 客員教授	

●本講座の目的およびねらい
環境問題について、「資源」という観点から、理論的枠組と、現実的なモデルを学習する。達成目標 1 資源利用に関する最適利用の理論的枠組みを理解できる。 2 3Rについて、地域の実例を知る。

●バックグラウンドとなる科目
低炭素都市学、水・廃棄物政策論、生物多様性保全政策概論

●授業内容
以下の内容について、3人の教員により順次、講義が行われる。1. 再生可能資源と非再生可能資源の最適利用の考え方、2. 主に、資源に関する国際協力の考え方、3. 3Rのモデルと理論

●教科書
講義ごとに資料を配布する。

●参考書
講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準
レポートによって評価する (100%)。履修条件は特になし。講義は、英語で行われる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
担当教員連絡先：青教授 内線 6 4 1 1 blue@rep.provost.nagoya-u.ac.jp
渡邊特任教授 6 4 9 7 miwata@urban.env.nagoya-u.ac.jp
田和特任教授 6 4 9 4 tawa01@urban.env.nagoya-u.ac.jp

環境都市システム論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期 1	1 年後期	
教員	藤田 壮 客員教授	

●本講座の目的およびねらい

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

●履修条件・注意事項

●質問への対応

インフラ検査・点検演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期 1	1 年前期	
教員	鎧石 和雄 教授 中村 光 教授 判治 剛 准教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教 清水 優 助教	

●本講座の目的およびねらい
コンクリート構造物および鋼構造物の劣化要因や維持管理の流れを学ぶとともに、機器を使った点検、点検調査の作成、劣化度評価を行う。講義は毎週行うのではなく、集中講義形式で行った後、講義で学んだ知識に基づき、各自で劣化した橋梁の現地調査を行い、その点検調査の作成と点検結果について発表会を行う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、構造力学、応用構造力学、コンクリート構造第1、コンクリート構造第2、コンクリート構造演習、鋼構造学

●授業内容
・ガイダンス、日本の橋梁の現状、基準の変遷・コンクリート構造物および鋼構造物に生じる変状の概説・ニューブリッジの劣化・コンクリート部材の劣化機構の推定・鋼部材の劣化機能の推定・橋梁の維持管理の流れ、非破壊試験の原理・国土交通省ならびに各機関の定期点検要領・点検の着目点・ケーススタディ、グループワーク ニューブリッジを用いた非破壊試験実習
ニューブリッジ (波江橋) の損傷図作成と損傷度評価 ニューブリッジ (波江橋) の劣化機構の推定・劣化構造物の現地調査・プレゼンテーション

●教科書
ニューブリッジの検査・点検コースの資料を配付する

●参考書

●評価方法と基準
全講義に出席を条件とし、プレゼンテーションの内容により評価する。100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F

●履修条件・注意事項
実習時の服装に注意すること。汚れてもよい服装で、靴履きのこと。

●質問への対応
講義中の質問および各教員へ来室しての質問を随時受け付ける。またe-mailでの質問も歓迎する。

流れ・地形解析学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 喬 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
河道の流れ・地形の解析や、流域の水・物質輸送、生物現象に関する解析手法に関する演習を行う。
1. 河道の流れや流域水輸送の解析手法の理論を理解する。 \ 2. 河道の流れや流域水輸送の数値解析モデルを用いて、想定した条件に応じた流れの計算を行い、表示できる。 \ 3. 生物現象の数値モデルの理論を理解する。
- バックグラウンドとなる科目
流れの力学 (水理学), 開水路水理学, 流域水文学, 河川工学
- 授業内容
1. 河道の流れ・地形解析の理論と解析手法 2. 地下水・土壌中の流れの理論と解析手法 \ 3. 生物現象の数値モデルに関する理論
- 教科書
プリントを配布する。
- 参考書
必要に応じて指定する
- 評価方法と基準
レポート(100%)
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤設計学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	加藤 博和 准教授 三輪 富生 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
都市計画, 交通計画, 地域計画などにおけるシステム分析手法について実習を行う。
目標は, 重回帰分析, 主成分分析, 判別分析, 離散選択モデルについて理解し, 与えられたデータに対して適した手法を選択できること。その上で, 正しい結果を導き, 適切な結果の解釈ができること。
- バックグラウンドとなる科目
確率・統計学や数値計画法などの分析手法についてある程度知識があることが望ましい。
- 授業内容
1. データ解析のための統計分析手法とツール
2. 重回帰分析 基礎
3. 重回帰分析 応用 (モデルの特定化・誤差項の問題, 一般化最小二乗法)
4. 主成分分析
5. 判別分析
6. 離散型選択モデル 理論
7. 離散型選択モデル 実践
- 教科書
- 参考書
河上省吾編著: 土木計画学, 鹿島出版会
北村隆一, 森川高行, 佐々木邦明, 藤井聡, 山本俊行: 交通行動の分析とモデリング—理論/モデル/調査/応用—, 技報堂出版
G.S. マダラ (和合肇訳著): 計量経済分析の方法, シーエービー出版
- 評価方法と基準
レポート (すべて提出することを単位取得の要件とする)
<平成23年度以降入・進学者>
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
<平成22年度以前入・進学者>
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
授業時およびE-Mailにて受け付ける。

構造力学特論演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	伊藤 義人 教授 北根 英雄 准教授 廣畑 幹人 助教	

- 本講座の目的およびねらい
形と力や構造力学で学んだ内容の演習を行う。
- バックグラウンドとなる科目
形と力
- 授業内容
簡単な追加説明の後に, 演習を行う。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
いつでも歓迎する

海工学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
沿岸域における現象について, 問題を見だし, 解決するための方法を考え, 自ら解決するための能力を身につける。
- バックグラウンドとなる科目
水圏力学特論, 海工学特論
- 授業内容
沿岸域で問題となっている現象を取り上げ, それを課題に, 問題解決の方法, 手法を整理し, その問題を解決するための演習を行う。そのため, 毎年複数の課題を提示し, グループ毎にその課題に取り組む。毎週グループ毎にプレゼンを行い全員でディスカッションをしながら解を見だしていく演習を行う。
- 教科書
特に指定しない
- 参考書
特に指定しない
- 評価方法と基準
レポートと口頭発表により目標達成度を評価し, 60点以上を合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
演習時, 来室等に対応。連絡先: 水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 中村 (4632, tnakamura@nagoya-u.jp)

地盤力学総合演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	中野 正樹 教授 野田 利弘 教授 山田 正太郎 准教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教 野々山 栄人 助教	

●本講座の目的およびねらい
地盤材料力学特論、地盤動力学特論で修得した事項をベースとして、土質力学・地盤工学に関連する演習問題やプログラミングに取り組み、基礎的な概念を深く理解する。

●バックグラウンドとなる科目
地盤材料力学特論、地盤動力学特論、連続体力学特論、数値解析特論

●授業内容
1. 土骨格の弾塑性構成式(各種土材料の弾塑性記述)の理解2. 地盤の動的問題の把握3. 地盤の变形・破壊に関する理論と解析手法の把握

●教科書
必要に応じて随時資料を配布する。

●参考書

●評価方法と基準
レポートの結果により判断し、60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp野田利弘：内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp山田正太郎：内線4621, s-yanada@civil.nagoya-u.ac.jp中井健太郎：内線5203, nakai@civil.nagoya-u.ac.jp田代むつみ：内線3834, natsuni@civil.nagoya-u.ac.jp野々山栄人：内線2734, monoyana@civil.nagoya-u.ac.jp

土水環境保全学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	片山 新太 教授	

●本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染および廃棄物処理に関する研究を行うための基礎知識・方法を演習を通して理解する。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、化学、微生物学、水理学

●授業内容
土壌地下水汚染における水質解析法、微生物のハンドリング法、汚染物質の分析法、地盤中の物質輸送解析法等から選択した項目に関して演習を行う

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
演習レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義の後または個別対応(あらかじめ電話・emailで決めた日時)

環境社会システム工学演習 (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	演習	
対象履修コース	社会基盤工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	谷川 寛樹 教授 林 希一郎 教授	

●本講座の目的およびねらい
<英語科目>自然や社会の複雑な現象を理解するためにはその挙動を系統的に把握することが重要である。本講義では、そのための手法として、環境システム解析の基礎となる統計解析、モデリング、シミュレーション等の技法を習得する。特に、地理情報システムを用いて上記分析を行うために必要な知識や使い方を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
環境社会システム工学低炭素都市学

●授業内容
以下の方法のいくつかを選び、具体的な問題を設定して、技法を習得する。1. GIS (地理情報システム) 2. 統計解析 3. システムダイナミクス

●教科書
講義中に指示する

●参考書
講義中に適宜配布する

●評価方法と基準
実習レポートの内容および出席によって習得度を評価する。環境学研究科、工学研究科それぞれの基準により評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
授業時に随時対応

高度総合工学創造実験 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
対象履修コース	全専攻・分野
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
異なる専門分野からなる数人のチームを編成し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。
その目的およびねらいは、

1. 異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化、
2. 異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験、
3. 自己専門の可能性と限界の認識、
4. 自らの能力で知識を総合化できるようにすることである。

●バックグラウンドとなる科目
「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。従って、「ベンチャービジネス特論I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」等の同様の産学連携教育関連科目の履修を強く推奨する。

●授業内容
異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編成し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月)【週1日】にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。
具体的な内容は次のHPを参照。
<http://www.cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp/jikken/jikken.html>

●教科書
特になし。

必要に応じて、授業時に適宜紹介する。

●参考書
特になし。

必要に応じて、授業時に適宜紹介する。

●評価方法と基準
実験の遂行、討論と発表会により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
原則、授業時に対応する。

グローバル研究インターンシップ (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	演習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	
教員	戸田 祐嗣 准教授 柴原 尚希 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 国際環境人材育成プログラムの一端として、国内外の大学、研究機関、企業、政府機関・自治体等において研究・調査を実施し、実践的研究能力を修得することを目的とする。本インターンシップは、指導教員との緊密な連携で行う。研究テーマをもって、ORT (On the Research Training)として位置づける。具体的な期間・内容等詳細は、指導教員およびインターンシップ先の受入れ専門家と十分な相談の上決定する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 NUCELIP講義（環境資源論、環境産業システム論、持続可能性と環境学、環境コミュニケーション、低炭素都市学、気候変動政策論、途上国開発特論など）</p> <p>●授業内容 国内外の大学、研究機関、企業、政府機関・自治体等における研究・調査学習</p> <p>●教科書 グローバル研究インターンシップの手引き</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 評価は「合・否」で行う。指導教員および受入専門家による評価書、提出レポート・成果発表会での発表にもとづいて成績を評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

研究インターンシップ1 (2.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ1 (3.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ1 (4.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。 ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ1 (6.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。

●バックグラウンドとなる科目
研究インターンシップを受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協働のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (8.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材となる素養を身につける。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協働のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のもに与えられる。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

最先端理工学特論 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。シンポジウム形式の学術討論を通して、最先端理工学研究を学び、テーマとなる分野の最新動向を学び、議論する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

最先端理工学実験 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
工学における最先端研究の動向を実践をもって学ぶことを目的とし、その研究を行うために必要な高度な実験に関する知識と技術、プレゼンテーション技術を総合的に習得する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
あらかじめ設定された実験(課題実験)あるいは受講者が提案する実験(独創実験)のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。結果を整理し、成果発表を行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
演習(50%)、研究成果発表とレポート(50%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする

●履修条件・注意事項

●質問への対応

コミュニケーション学 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	古谷 礼子 准教授

●本講座の目的およびねらい
母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

(1) ビデオ録画された論文発表を見る：モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ。(2) 発表する：クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する。(3) 討論する：クラスメイトの発表を相互に評価し合う：きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす

●教科書

なし

●参考書

(1) 「英語プレゼンテーションの技術」：安田 正、ジャック ニクリン著：The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成：口頭発表の準備の手続き」：産能短期大学日本語教育研究室著：凡人社

●評価方法と基準

発表論文とclass discussion (平常点)の結果による

●履修条件・注意事項

●質問への対応

先端自動車工学特論 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年春学期
開講時期2	2年春学期
開講時期3	3年春学期
教員	石田 幸男 特任教授

●本講座の目的およびねらい

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●評価方法と基準

●履修条件・注意事項

●質問への対応

科学技術英語特論 (1.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	非常勤講師 (教務)

●本講座の目的およびねらい
研究成果をまとめて国際的学術誌に英文で投稿し、さらに国際会議において英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

英語学に関する諸科目

●授業内容

外国人教員による英語の講義

1. Simplicity and clarity in English
2. English grammar: Common problems
3. Readability I: Sentences and paragraphs
4. Readability II: Parallelism and other matters of style
5. Readability III: Writing scientific papers
6. Public speaking at international conferences
7. Email, CVs, and job applications

●教科書

●参考書
Students receive all printed materials for each lecture from the instructor. They also receive extensive annotated bibliographies of resources for academic, scientific, and technical English.

●評価方法と基準

発表内容、質疑応答、出席状況

●履修条件・注意事項

●質問への対応

ベンチャービジネス特論 I (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい

我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻りに指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な基本的な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示し、研究を生かしたベンチャービジネスを考える。

●バックグラウンドとなる科目

卒業研究、修士課程の研究

●授業内容

1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ---リスクとメリット---
2. 事業化と起業の知識と準備 ---技術者・研究者として抑えるべきポイント---
3. 大学の研究から事業化・起業へ ---企業における研究開発の進め方---
4. 事業化の推進 ---事業化のための様々な交渉と市場調査---
5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野
6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野
7. 名大発の事業化と起業(3): バイオ、医療分野
8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野
9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野
10. まとめ

●教科書

「実践起業論 新しい時代を創れ!」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ
その他、適宜資料配布

●参考書

「ベンチャー経営心得」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ
その他、適宜指導

●評価方法と基準

レポート提出および出席

●履修条件・注意事項

●質問への対応

ベンチャービジネス特論II (2.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	永野 修作 准教授 枝川 明敬 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 前期Iにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家と交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解する。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Iを受講するのが望ましい。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 ベンチャービジネス特論I、卒業研究、修士課程の研究。経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。</p> <p>●授業内容 1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーと経営戦略 4. ベンチャーとマーケティング戦略 5. ベンチャーと企業会計 6. ベンチャーと財務戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点: IPO企業) 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの選定とまとめ 15. まとめ</p> <p>●教科書 講義資料を適宜配布する。</p> <p>●参考書 適宜指導</p> <p>●評価方法と基準 授業中に出席される課題</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

学外実習A (1.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員(社会基盤)
<p>●本講座の目的およびねらい 実務現場(計画・調査・設計・建設・維持・管理)での実習体験を通じて、実社会で役に立つ土木技術者に求められる資質を身につけ、どのような素養が実社会で必要とされ、大学で学んだことがどのように企業や官庁などで生かされるのかを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし</p> <p>●授業内容 実務現場における体験学習</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●評価方法と基準 評価は「合・否」で行い、以下の要件を満たしたものを「合」、そうでないものを「否」とする。(1)原則として10日間または64時間以上の実習をうけること、(2)「実習証明書」において合の判定をうけること、(3)レポートを提出し発表会での発表を行うこと。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

宇宙研究開発特論 (2.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	リーディング大学院事業 各教員
<p>●本講座の目的およびねらい 宇宙工学、宇宙科学、ものづくり/数値実験、組織・マネジメント、科学リテラシーなど、宇宙研究開発に必要な基礎知識を、企業経験者を含む各分野の専門家が解説する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 数学基礎、物理学基礎</p> <p>●授業内容 1. 宇宙研究の課題 2. 宇宙物理学基礎 3. 宇宙観測技術 4. 宇宙環境科学 5. 人工衛星開発 6. 宇宙推進工学 7. 複合材料 8. 電子回路技術 9. 放射線検出器 10. 数値実験(理学) 11. 数値実験(工学) 12. プロジェクトマネジメント 13. 研究開発マネジメント 14. 科学論文執筆、プレゼンテーション技術 15. ビジネスで利用する知的財産の仕組み</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

実世界データ解析学特論 (2.0単位)					
科目区分	総合工科学目				
課程区分	前期課程				
授業形態	講義				
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理工学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻				
開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期2	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
教員	リーディング大学院 各担当者(情報I)				
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>					

—実世界データ解析学特論 (3.0単位)—

科目区分	総合工科学目					
課程区分	前期課程					
授業形態	講義及び演習					
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野	生物機能工学分野	材料工学分野	応用物理工学分野	量子エネルギー工学分野
科学分野	量子エネルギー工学分野	電気工学分野	電子工学分野	情報・通信工学分野	機械工学分野	機械情報システム工学分野
電子機械工学分野	航空宇宙工学分野	社会基盤工学分野	結晶材料工学専攻	エネルギー理工学専攻	量子工学専攻	マイクロ・ナノシステム工学専攻
物質制御工学専攻	計算理工学専攻					
開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期2	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期3	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期4	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期5	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
開講時期6	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
教員	リーディング大学院 各担当者(情報L)					

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—実世界データ循環システム特論I (2.0単位)—

科目区分	総合工科学目					
課程区分	前期課程					
授業形態	講義					
対象履修コース	応用化学分野	分子化学工学分野	生物機能工学分野	材料工学分野	応用物理工学分野	量子エネルギー工学分野
科学分野	量子エネルギー工学分野	電気工学分野	電子工学分野	情報・通信工学分野	機械工学分野	機械情報システム工学分野
電子機械工学分野	航空宇宙工学分野	社会基盤工学分野	結晶材料工学専攻	エネルギー理工学専攻	量子工学専攻	マイクロ・ナノシステム工学専攻
物質制御工学専攻	計算理工学専攻					
開講時期1	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
開講時期2	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
開講時期3	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
開講時期4	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
開講時期5	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
開講時期6	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期	2年前期
教員	リーディング大学院 各担当者(情報L)					

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—国際プロジェクト研究 (2.0単位)—

科目区分	総合工科学目	
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
全専攻・分野	共通	
開講時期1	1年前後期	
開講時期2	2年前後期	
教員	各教員(世界展開力)	

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を実体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
- 授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。帰国後、担当教員に研究活動の内容を報告し評価を受ける。
- 教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
- 参考書
- 評価方法と基準
所属研究室の教員による評価、口頭発表(2.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数20日以下の場合に与えられる。(3.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数21日以上40日以下の場合に与えられる。(4.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数41日以上の場合に与えられる。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

—国際プロジェクト研究 (3.0単位)—

科目区分	総合工科学目	
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
全専攻・分野	共通	
開講時期1	1年前後期	
開講時期2	2年前後期	
教員	各教員(世界展開力)	

- 本講座の目的およびねらい
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を実体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。
- バックグラウンドとなる科目
工学全般、英語、技術英語
- 授業内容
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。担当教員に研究活動の内容を報告し評価を受ける。
- 教科書
研究内容に応じ指導教員から指定される。
- 参考書
- 評価方法と基準
所属研究室の教員による評価、口頭発表 (2.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数20日以下の場合に与えられる。(3.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数21日以上40日以下の場合に与えられる。(4.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数41日以上の場合に与えられる。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

国際プロジェクト研究 (4.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	各教員(世界展開力)
<p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を体験させる。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 工学全般、英語、技術英語</p> <p>●授業内容 海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。担当教員に研究活動の内容を報告し評価を受ける。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 研究内容に応じ指導教員から指定される。</p> <p>●評価方法と基準 所属研究室の教員による評価、口頭発表 (2.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数20日以下の場合に与えられる。(3.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数21日以上40日以下の場合に与えられる。(4.0単位の場合) 海外の研究機関等で研究に従事した総日数41日以上の場合に与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

国際協働教育特別講義 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	(未定)
<p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、国際性に富む講師による英語での特別講義を受講する。英語による講義を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 工学全般、英語、技術英語</p> <p>●授業内容 英語により地球規模での未来の工学に関する特別講義を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 資料配付を予定している。</p> <p>●評価方法と基準 質疑応答及びレポートにより評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

国際協働教育外国語演習 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	演習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	(未定)
<p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、母国語以外の英語あるいは日本語の外国語演習を行い、授業の受講及び研究の遂行のために必要な語学能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 英語、技術英語、日本語</p> <p>●授業内容 授業の受講及び研究の遂行のため、母国語以外の英語あるいは日本語の演習を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書 未定</p> <p>●評価方法と基準 質疑応答及びレポートにより評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

構造工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	伊藤 義人教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容 1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー中に対応する。</p>	

構造工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する。

構造工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する。

構造工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する。

構造工学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 准教授 廣畑 幹人 助教

- 本講座の目的およびねらい
構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。
- バックグラウンドとなる科目
構造力学、応用構造力学、極限強度学など
- 授業内容
1. 構造動力学: 2. 構造安定理論: 3. 耐震設計理論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー中に対応する。

材料・形態学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	中村 光教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	中村 光教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	中村 光教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	中村 光教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を輪読・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

材料・形態学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	中村 光 教授 山本佳士 准教授 三浦 泰人 助教

●本講座の目的およびねらい
セメント化学に関する教科書・文献を論議・発表し、セメントの化学的性質とコンクリートの劣化メカニズムを理解するための基礎力と応用力を身につける。
また、文献の発表を通して、資料整理、関連技術調査、プレゼンテーションを含む総合力を養う。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1, 第2 (学部講義)

●授業内容
1. Hydration of cement
2. Concrete chemistry
・Carbonation, chloride penetration and corrosion of reinforcement
・Alkali silica reaction
・Sulfate attack
・Delayed ettringite formation

●教科書
Cement Chemistry 2nd edition H.F.W. Taylor, Thomas Telford

●参考書
特になし

●評価方法と基準
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、60%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

〈大学院：平成23年度以降入学者〉
100～90点：S, 89～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：F
〈大学院：平成22年度以前入学者〉
100～80点：A, 79～70点：B, 69～60点：C, 59点以下：D 60%以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

流域保全学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生息環境評価の手法

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

流域保全学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生息環境評価の手法

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

流域保全学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生息環境評価の手法

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— 流域保全学セミナー2D (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生態環境評価の手法

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— 流域保全学セミナー2E (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目
水理学, 流域水文学, 人間活動と環境, 河川工学, 開水路水理学

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念: 2. 河川・流域景観の構成: 3. 流出・土砂生産: 4. 河道のプロセス: 5. 生態環境評価の手法

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーでの発表及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

—— 海岸・海洋工学セミナー2A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。:達成目標: 1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。: 2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格

●履修条件・注意事項

●質問への対応
セミナー時に対応。連絡先: 水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 中村 (4632, tnakamura@nagoya-u.jp)

—— 海岸・海洋工学セミナー2B (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。:達成目標: 1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。: 2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
セミナー時に対応。連絡先: 水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 中村 (4632, tnakamura@nagoya-u.jp)

_____ 海岸・海洋工学セミナー 2 C (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2年前期
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書

各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書

指定はしない。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、中村（4632, tnakanura@nagoya-u.jp）

_____ 海岸・海洋工学セミナー 2 D (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2年後期
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書

各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書

指定はしない。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、中村（4632, tnakanura@nagoya-u.jp）

_____ 海岸・海洋工学セミナー 2 E (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	3年前期
教員	水谷 法美 教授 中村 友昭 准教授 菊 雅美 助教

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。：達成目標：1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。：2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

海岸工学・海洋工学に関連した英文論文を熟読し、英語で発表・議論を行う。

●教科書

各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書

指定はしない。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、60点以上を合格。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

セミナー時に対応。連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、中村（4632, tnakanura@nagoya-u.jp）

_____ 地盤材料工学セミナー 2A (2.0単位) _____

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	1年前期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

●本講座の目的およびねらい
地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論、地盤力学特論、連続体力学特論、数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討論を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で80点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp | 山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp | 野々山崇人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論、地盤力学特論、連続体力学特論、数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討議を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp野々山崇人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論、地盤力学特論、連続体力学特論、数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討議を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp野々山崇人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論、地盤力学特論、連続体力学特論、数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討議を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp野々山崇人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

地盤材料工学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	中野 正樹 教授 山田 正太郎 准教授 野々山 崇人 助教

●本講座の目的およびねらい

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の知見や研究の動向について理解するとともに、課題の抽出、解決のための方策を議論し、基礎学理との関連を理解する。また、研究の遂行・発展に必要な論文読解力、プレゼンテーション力等を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

地盤材料学特論、地盤力学特論、連続体力学特論、数値解析特論

●授業内容

地盤工学・地盤材料工学に関する最新の論文を輪読する。担当者は、担当回までに論文を読みこみ、レジュメを作成しておく。担当回では、これらに基づき内容を紹介するとともに、総合的な討議を行う。

●教科書

対象とする論文については、セミナーの進行に合わせて適宜選択し、配布する。

●参考書

適宜、紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける発表、質疑応答、討論により目標達成度を総合的に評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし

●質問への対応

セミナー時および終了後に対応する。中野正樹：内線4622, nakano@civil.nagoya-u.ac.jp山田正太郎：内線4621, s-yamada@civil.nagoya-u.ac.jp野々山崇人：内線2734, nonoyama@civil.nagoya-u.ac.jp

国土防災安全工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期 1 1年前期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習

●授業内容
 1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤構造物の変形・安定性:3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4. 地盤補強・改良工法の設計:5. 耐震工学の基礎:6. 地震入力:7. 地震応答解析及び耐震安全性評価

●教科書
 必要に応じて、プリント配布

●参考書
 ●評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
 ●質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期 1 1年後期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習

●授業内容
 1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤材料の構成式:3. 地盤構造物の変形・安定特性:4. 軟弱地盤における地盤構造物の設計法:5. 地盤補強・改良工法の設計:6. 各種土木構造物の耐震設計理論

●教科書
 必要に応じて、プリント配布

●参考書
 ●評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
 ●質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期 1 2年前期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習

●授業内容
 1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤構造物の変形・安定性:3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4. 地盤補強・改良工法の設計:5. 耐震工学の基礎:6. 地震入力:7. 地震応答解析及び耐震安全性評価

●教科書
 必要に応じて、プリント配布

●参考書
 ●評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
 ●質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

国土防災安全工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分 主専攻科目
 課程区分 後期課程
 授業形態 セミナー
 対象履修コース 社会基盤工学分野
 開講時期 1 2年後期
 教員 野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

●本講座の目的およびねらい
 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。

●バックグラウンドとなる科目
 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習

●授業内容
 1. 軟弱地盤力学の基礎:2. 地盤構造物の変形・安定性:3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4. 地盤補強・改良工法の設計:5. 耐震工学の基礎:6. 地震入力:7. 地震応答解析及び耐震安全性評価

●教科書
 必要に応じて、プリント配布

●参考書
 ●評価方法と基準
 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
 ●質問への対応
 質問は随時E-mailで受け付ける。
 (内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

—— 国土防災安全工学セミナー2F (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	野田 利弘 教授 中井 健太郎 准教授 田代 むつみ 助教

- 本講座の目的およびねらい
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
- バックグラウンドとなる科目
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
- 授業内容
1.軟弱地盤力学の基礎:2.地盤構造物の変形・安定性:3.軟弱地盤における地盤・構造物の設計法:4.地盤補強・改良工法の設計:5.耐震工学の基礎:6.地盤入力:7.地震応答解析及び耐震安全性評価
- 教科書
必要に応じて、プリント配布
- 参考書
- 評価方法と基準
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問は随時E-mailで受け付ける。
(内線3833, noda@civil.nagoya-u.ac.jp)

—— 社会基盤維持管理工学セミナー2A (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授 清水 優 助教

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

—— 社会基盤維持管理工学セミナー2B (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授 清水 優 助教

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

—— 社会基盤維持管理工学セミナー2C (2.0単位) ——

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛 准教授 清水 優 助教

- 本講座の目的およびねらい
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
- バックグラウンドとなる科目
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
- 授業内容
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
- 教科書
適宜指定する。
- 参考書
- 評価方法と基準
出席と授業中の態度にて評価する。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
適宜対応する。

社会基盤維持管理工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛准教授 清水 優 助教

●本講座の目的およびねらい
 地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。

●バックグラウンドとなる科目
 橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識

●授業内容
 主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。

●教科書
 適宜指定する。

●参考書

●評価方法と基準
 出席と授業中の態度にて評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 適宜対応する。

社会基盤維持管理工学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	館石 和雄 教授 判治 剛准教授 清水 優 助教

●本講座の目的およびねらい
 地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の基本思想、安全性の評価手法などに関して、国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げて、幅広い知識を習得する。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総合的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。

●バックグラウンドとなる科目
 橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識

●授業内容
 主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道などのライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。

●教科書
 適宜指定する。

●参考書

●評価方法と基準
 出席と授業中の態度にて評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 適宜対応する。

社会基盤計画学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	中村 英樹 教授

●本講座の目的およびねらい
 都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
 交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書
 適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
 レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	中村 英樹 教授

●本講座の目的およびねらい
 都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目
 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画

●授業内容
 交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書
 適宜指定

●参考書

●評価方法と基準
 レポートと発表

●履修条件・注意事項

●質問への対応

社会基盤計画学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	中村 英樹 教授

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	中村 英樹 教授

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

社会基盤計画学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	中村 英樹 教授

- 本講座の目的およびねらい
都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画
- 授業内容
交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。
- 教科書
適宜指定
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートと発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

地圏環境保全学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	片山 新太 教授

- 本講座の目的およびねらい
土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。：達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を自分自身で見つけ理解し、説明できる能力を身につけることを目標とする。
- バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D
- 授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点を以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

地圏環境保全学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果を取り上げて、研究のアプローチを批判的に説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果および論旨を取り上げて、論旨の論理的展開を比較し、批判的に説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D、2A、2B

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果および論旨を取り上げて、論旨の論理的展開を比較し、批判的に説明し、更に自分の考え方を提案できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

地圏環境保全学セミナー2E (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	片山 新太 教授

●本講座の目的およびねらい
達成目標:受講者は地圏環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要あるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果および論旨を取り上げて、論旨の論理的展開を比較し、批判的に説明した後、自分の考え方を提案できる。

●バックグラウンドとなる科目
環境地盤工学、衛生工学、土壌学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地圏環境保全学セミナー1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D

●授業内容
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要と考えられる課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10編以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

国際環境協力セミナー 2 A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	1年前期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討論への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー 2 B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	1年後期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討論への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー 2 C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2年前期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討論への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー 2 D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期 1	2年後期
教員	林 希一郎 教授

●本講座の目的およびねらい
国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
途上国開発特論I,II、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー 1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C

●授業内容
国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員を交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
セミナーにおける発表と討論への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業中またはメールにて対応。

国際環境協力セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	林 希一郎 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 国内外の各レベルにおける持続可能な発展の実現にかかわる制度や政策、評価手法に関して、既存文献を学生自らが調査・考察し、発表を行う基礎力、応用力などを総合的に養うことを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 途上国開発特論1,11、人間活動と環境、都市環境システム工学、国際環境協力セミナー1A,1B,1C,1D,2A,2B,2C,2D</p> <p>●授業内容 国内外の環境問題の解決を目指し、持続可能な発展を実現するための制度や政策、及び評価手法の研究を念頭に、環境システム工学、環境政策学、環境経済学的な観点から分析する方法論を学習し、討論を行う。学生自ら国内外の文献を収集・分析し、また、自らの研究に取り組み、その成果を発表し、教員と交えた議論を行う。学生の中に英語による会話を必要とする学生が参加している場合には、英語でセミナーを行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける発表と討議への参加により評価する。毎回出席する必要がある。100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 授業中またはメールにて対応。</p>	

環境エコロジシステムセミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

環境エコロジシステムセミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

環境エコロジシステムセミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年前期
教員	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

環境エコロジシステムセミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	2年後期
教員	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

環境エコロジシステムセミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	3年前期
教員	山本 俊行 教授 三輪 富生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 環境的な持続可能性を達成するための施策およびそれに関連する現象の理解を目的とし、交通に関する環境的な持続可能性の側面から、交通行動理論、交通計画、交通と環境、等の研究方法について修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容 交通行動分析や交通計画、交通と環境などの交通の持続可能性を議論するために必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書 適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 発表と授業への活発な参加（他のグループの発表に対する質疑を含む）</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

インフラ技術開発・移転セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年前期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授 檜尾 正也 寄附講座准教授
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

インフラ技術開発・移転セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	社会基盤工学分野
開講時期1	1年後期
教員	Muhandiki Victor 寄附講座教授 檜尾 正也 寄附講座准教授
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

国際協働プロジェクトセミナーII (4.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理工学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻
開講時期1	1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期2	2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員	各教員(世界展開力)
<p>●本講座の目的およびねらい 総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を体験する。工学に関する共同研究を通して基礎知識、研究能力、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 工学全般、英語、技術英語</p> <p>●授業内容 海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。指導教員からの定期的な指導を受け、レポート提出などを行う。帰国後、海外の担当教員から研究活動の内容及び指導成果の報告を受け、総合評価を受ける。</p> <p>●教科書 研究内容に応じ指導教員から指定される。</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 指導教員を含む担当教員グループの合議により、国際協働研究における基礎知識・研究能力・コミュニケーション能力などについて、プログラムが定める評価基準に従って総合評価する。合格と評価された場合、中期プログラムで、6カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、2単位長期プログラムで、12カ月程度海外の研究機関等で研究に従事した場合、4単位が認められる。</p> <p>●履修条件・注意事項 プログラム参加者のみ</p> <p>●質問への対応</p>	

実験指導体験実習 1 (1.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての益成に役立てる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし。</p> <p>●授業内容 高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>ただし、授業時に適宜参考となる文献・資料を紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 とりまとめと指導性により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 授業時に対応する。</p>	

実験指導体験実習 2 (1.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー等の最先端理工学実験において、後期課程学生が実験指導を行うことを目的とする。この研究指導を通して、研究・教育及び指導者としての総合的な役割を果たすとともに、自身の指導者としての実践的な養成に役立てる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし。</p> <p>●授業内容 最先端理工学実験において、担当教員のもと、課題研究および独創研究の指導を行う。成果のまとめ方(レポート作成指導)、発表に至るまで担当の学生の指導者的役割を担う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

研究インターンシップ2 (2.0単位)	
科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたりリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協働のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (3.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (4.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (6.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (8.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	田川 智彦 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材となる素養を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上100日以下のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

実世界データ循環システム特論II (2.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	講義

対象履修コース 応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻

開講時期1	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期
	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期	1年後期

教員 リーディング大学院 各担当者(情報L)

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

産学官プロジェクトワーク (2.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	講義

対象履修コース 応用化学分野 分子化学工学分野 生物機能工学分野 材料工学分野 応用物理学分野 量子エネルギー工学分野 電気工学分野 電子工学分野 情報・通信工学分野 機械科学分野 機械情報システム工学分野 電子機械工学分野 航空宇宙工学分野 社会基盤工学分野 結晶材料工学専攻 エネルギー理工学専攻 量子工学専攻 マイクロ・ナノシステム工学専攻 物質制御工学専攻 計算理工学専攻

開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
前期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期
	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期	1年前後期

教員 リーディング大学院 各担当者(情報L)

- 本講座の目的およびねらい
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応